

2019年度 入学式を挙



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼人 中原 泉
編集人 1部10円
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎025(267)1500



大学のシンボルマーク

晴れの新生たち

2019年度(平成31)の日本歯科大学の入学式は、4月初旬、生命歯学部と新潟生命歯学部で挙行された。あわせて大学院の両研究科、東京短大、新潟短大の入学式が行われた。

生命歯学部

生命歯学部の部は、4月5日に生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。

定刻午後1時30分、高橋孝幸事務部長より開式が宣せられ、学年主任の今井敏夫教授による生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科委員の添野雄一教授による大学院生命歯学研究科

入学生の点呼が行われた。中原学長と八重垣健二(要旨2面)、生命歯学部入学生を代表して、岡本万里さん、大学院入学生を代表して中山峻太郎君が宣誓。ついで列席の法人役員、役職者、担当教授が紹介され、午後2時20分に閉式した。

4月3日に新潟生命歯学部講堂において挙行された。定刻午後1時30分、若槻紀寿事務部長より開式が宣せられ、学年主任の廣安一彦教授による新潟生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科長の新海航一教授による大学院新潟生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

東京短期大学の入学式は、4月5日午前10時30分から生命歯学部富士見ホールにおいて挙行された。短大事務室の今井久枝主事補が開式を宣し、歯科技工学科と歯科衛生学科の入学生、専攻科入



中原学長の訓辞に聞き入る新生たち(東京)



学年主任により入学生点呼が行われた(新潟)



新生入生に訓辞を述べる中原学長(新潟)



点呼に応え起立する新生たち(東京)

は、4月3日に新潟生命歯学部講堂において挙行された。定刻午後1時30分、若槻紀寿事務部長より開式が宣せられ、学年主任の廣安一彦教授による新潟生命歯学部入学生、編入学生の点呼、ならびに研究科長の新海航一教授による大学院新潟生命歯学研究科入学生の点呼が行われた。

歯の細胞バンク講習会

会場：日本歯科大学生命歯学部
費用：無料(いずれか1回受講してください)

第1期 コーディネーター講習会

- 第1回 2019年 5月19日(日) 終了
- 第2回 5月23日(木) 終了
- 第3回 12月8日(日)
- 第4回 12月19日(木)

◇対象：歯科衛生士、歯科技工士
◇時間：(日) 13:00~15:00
(木) 18:00~20:00

第3期 認定医講習会

- 第13回 2019年 7月28日(日)
- 第14回 11月24日(日)

◇対象：歯科医師、医師
◇時間：13:00~15:00

学生の点呼が行われた。奈良陽一郎学長が訓辞を述べ(要旨3面)、ついで来賓祝辞で沼部幸博生命歯学部長は「みなさんは幼いころに、ご両親から食べたら歯を磨きなさい、甘いものを食べ過ぎると歯が腐ると言われてきたと思う。また学校の保健体育で、むし歯はどうしてできるのか、歯周病はどうして進行するのだろうか、原因は何かという授業を受けたこともあるだろう。どうしてそういう病気になるのか、どうやって治すのかという疑問をもつことは、これからとても大事なことになる。みなさんが接する患者さんの苦しみ、不自由さを救ってあげるためにも、いろいろな疑問に対して正しく答える知識や技術を学ぶことになる。大学は勉学、知識探求、技術や技能習得の場であり、さらに大事なものは、歯科医療の担い手としての心構えと態度を学ぶ場でもある。先生や職員の方々もみなさんに多くの知識、技能を最高の学習環境で提供する。それを十分に活用しながら新しい仲間

大島教授(東京短大) 全国歯科技工士教育協議会会長

東京短期大学歯科技工学科の大島克郎教授第88回卒は、5月18日全国歯科技工士教育協議会総会において会長に選出され就任した。任期は3年。全国歯科技工士教育協議会は1971年に創立され、日本全国の歯科技工士養成機関のすべて50校が加盟している。歯科技工士をめざす学生の教育の充実を図るために、教員の資質向上や教育資料の開発を目的としている。初代会長は、故多和田泰一本学名誉教授(第19回卒)が務めた。

おわりに新生を代表して歯科技工学科の齋藤瑞結香さんが宣誓。列席の来賓、役職者、担当教授が紹介され、午前11時10分に閉式した。

新潟短期大学

新潟短期大学の入学式は、4月3日午前10時30分から新潟生命歯学部講堂で挙行された。須貝将紀短大事務部長が開式を宣し、歯科衛生学科入学生と専攻科入学生の点呼が行われた。

五十嵐文雄学長が訓辞を述べ(要旨3面)、来賓祝辞で藤井一維新潟生命歯学部長は、「この春に『笑顔の向こうに』という映画が封切になった。映画は歯科衛生士と歯科技工士が主人公だ。日本歯科医師会の意図は、衛生士と技工士の仕事を知ってもらいたいということだった。歯科衛生士になりたいと思う高校生や大学生は、歯科衛生士になるには相当の努力が必要だ。専攻科のみなさんは次のステージに進んでいくが、これからは専門性をもった歯科衛生士が求められる時代になる」と祝辞を述べた。

おわりに新生を代表して佐野ゆうかさんが宣誓。列席の来賓、役職者、担当教授が紹介され、午前11時10分に閉式した。

訂正：本紙第657号(4月30日号)1面掲載の統一地方選挙で、千葉市議会議員に当選された鷲見隆仁先生は94回卒業なので、見出しを訂正します。

中原泉学長 入学式訓辞

◆諸君の目的と目標◆

先月末に新入生諸君と入れ替わりに本学を卒業した先輩諸君は、日本歯科大学の第108回卒業生にあたる。本学では卒業以来、通し番号で卒業回数を数えているので、諸君は6年の後には、日本歯科大学第114回卒業生として卒業していくことになる。

そのときには諸君は、いわゆる学士（歯学）＝歯学士の学位を取得する。歯学士というのは歯学部卒業者であって、歯科医師国家試験を受験する資格を有する者、すなわち国家試験受験者という立場である。歯学士でなければ歯科医師国家試験を受験することはできない。

- なる以外の選択肢はない。さて、あくまで一般論だが、最近の若者の傾向としてつぎのような特色があげられている。
- (1) 大切に育てられている
 - (2) 兄弟・姉妹が少ない
 - (3) 人と競争をしない
 - (4) 決して無理をしない
 - (5) 適当なところで妥協する
 - (6) 今が良ければ良い
 - (7) 外国にあまり関心が無い
 - (8) 自分に閉じこもりがち
 - (9) 何事にも好奇心が薄い
 - (10) 将来のことを心配しない

◆新しいハードル◆

新入生諸君は日本歯科大学が第一志望だったか？4、5年前の本学学生会の新入生のアンケートでは、本学が第一志望だった人は約6割だった。これが多いのか少ないのかは私も判断がつかないが、私は諸君の志望度については関心はない。この数年間諸君にとって最も大切だったのは偏差値だったろう。

この偏差値は、高校時代という一時期の学識レベルを数値化した評価であり、人生における通過点の一つにしか過ぎない。諸君の志望度や偏差値が高かろうと低かろうと関係なく、本学には新しいハードルと評価が待っている。もはや志望度や偏差値はチャラになるので、ここで自らをリセットし、みな一線スタートになる。

最後の誠実さと人の痛みを理解する心は、恐らく生れついでに資質だろう。人の生命体に医学的に行う職業人になる者には必要不可欠、必須のものだと思う。

諸君はこの七つの資質を聞いて、どう自分の胸に問いかけただろうか。あるいは資質などなくても歯学部に入れたのなら、あとはエスカレーターに乗ったように歯科医師のライセンスに辿りつく、タカをくくっていた人もいるかもしれない。

けれども歯科医師国家試験は難しい試験である。私は司法試験より大変だと思っている。1年生の授業から国家試験の問題が出る。1年生の授業全部ではないが、1年生にある幾つかの講義の中から6年後の国家試験に問題が出る。2年生の授業、3年、4年と専門になれば当然出てくるので、6年間にわたって諸君は国家試験の勉強をしなければならぬ。国家試験は受験者自身の諸君が受ける最終の最も高いハードルなので、国家試験に受かるか受からないかは、結局6年間の諸君の勉学の如何にかかっている。その結果は、諸君自身の自己責任に帰することである。

大学院研究科長 訓辞

生命歯学研究科長 八重垣 健



本学大学院生命歯学研究科のレベルは、旧帝国大学に勝るとも劣らぬ高いことをみなさんはご存知だろうか。その基準は英語で書いた博士論文の数である。そしてインパクトファクター（IF）という国際評価のついた学術誌への論文発表だ。このような学術誌では非常に厳しい論文審査があり、合格率1〜2%という難しい学術誌もある。3月の大学院修了式でI

何故かと言うと、50歳になったときに、人生コツコツやる奴にはかなわないことを悟ったからである。この「日々コツコツ」も諸君にとっては「ナアランダ」という印象があるだろう。20歳前後の諸君にこんな辛気くさい、面倒くさい人生訓なんて、と思うが、私は諸君より少なくとも半世紀は長く生きていくので、人生のことは大抵は体験している。年寄りの言うことは聞いておくもので、諸君もこれから人生において必ずその年寄りと同じ経験をすることになるから。毎日真面目に努力することが、最も大切な生き方であると私は信じている。諸君、人生は日々コツコツである。（4月3日・5日）

先ほど学長の訓辞にあつたように、新入生諸君は受験するにあたり、偏差値や国家試験合格率などで本学を推し量つたろう。これからは本学の博士論文も加えて評価していただきたい。世界で偏差値などで大学の評価をするのは、日本、中国、韓国など東アジアだけである。

個人的な話で申し訳ないが、私が大学世界ランク35位の大学で教授をしていた時代がある。世界ランク大学での評価や価値観は主に研究能力で評価される。私がここで

申し上げている博士論文のことだ。大学院新入生のみなさんは素晴らしい大学院に入学した。自覚してほしい。4年間苦しみ、涙を流しながら、世界に誇る博士論文を書いていただきたい。

入学してまずやること、英語論文を自由に読みこなすことで、日本人が一番苦手としている。アジア・アフリカの発展途上国の学生は全て英語の教科書で勉強している。みなさん、本当の研究と学問をやりましょう、必ずできます。（4月5日）

国家試験合格のため、大半の学生は強いて勉強した、すなわち「勉強だつた」と思う。しかし大学院において諸君が行う研究はそのような類ではない。自分の興味のある分野を選択したわけだから、その分野のいろいろなかとに興味津々だと思つて、それが研究の第一歩である。まず和文献を

読んでみよう。論文では専門用語が次々とあらわれ、初めは理解するのに時間がかかるが、興味があからこそ飽きることなく、知識が膨らんでいくと思う。そのうちに最新の情報を知りたい気持ちになるだろう。そうしたら国際誌に目を向けなければならぬ。

そして未だ説明されていないこと、これから開発すべきこと、研究のテーマに繋がることを見つけてほしい。研究テーマが決まったら、次は研究目的を明確にした上で実験計画を立てる。そして研究結果をまとめると成果を公表しなくてはならない。博士号の取得は最終的に論文の公表、すなわち学術誌への掲載で完結される。大学院新潟歯学研究科は国際誌で

このように三段階の壁を突破しないと国際誌に掲載されない。IFの高い国際誌ほど壁は高くなる。高い壁を早く乗り越えることができれば、早期修了者として3年次に博士号を取得することも可能だ。諸君の健闘を期待する。（4月3日）



中原泉学長：誠実さ、そして人の痛みを理解する心は人の生命体に医学的行為を行う職業人になる者には必要不可欠、必須のものである...

①基本的な学力、②主体的に学ぶ力、③コミュニケーション能力、④誠実さ、⑤責任感、⑥倫理観、⑦人の痛みを理解する心、の七つである。

このうち最初の基本的な学力と主体的に学ぶ力は知識能力の資質で、入学試験や入学後の勉学を通して後天的に獲得されるものである。またコミュニケーション能力、責任感、倫理観、これは徳義心と言ひ、道徳上の義務だが、専門職として社会的な使命感を通して後天的に獲得していくものだと思つている。

私は時折、先生の人生訓はなんですかと尋ねられることがある。私は「塵も積もれば山となる」で、それを自分の戒めとしてきた。しかし近年もつと分かりやすく言つた方がいいかと考え、最近「日々、コツコツ」と言いかえている。

諸君は学部学生として習ってきたらうか。進級のため、卒業するため、



新潟生命歯学研究科長 新海 航一

新入生諸君は、歯科医師となる大きな夢への第一歩を踏み出した。正確な知識と技術を習得して、歯科医師としてふさわしい豊かな人間性を身につけたい」と宣誓する新入生代表（上・東京、下・新潟）



「日本歯科大学に入学し、歯科医師となる大きな夢への第一歩を踏み出した。正確な知識と技術を習得して、歯科医師としてふさわしい豊かな人間性を身につけたい」と宣誓する新入生代表（上・東京、下・新潟）



短期大学学長 訓辞

東京短期大学学長
奈良陽一郎



私が日本歯科大学歯学部を卒業して約40年が過ぎようとしている。自分の登院生のころは元気に通院する健全な患者さんがほとんどであり、お口を開けていただくと探さなくても齲蝕が目に見えていた。また治療する前に、プレート状に付着した歯石

新潟短期大学学長
五十嵐文雄



日本歯科大学新潟短期大学は世界最大の歯科大学である日本歯科大学を母体とし、1983年に附属新潟専門学校として開校、その後4年後に短期大学に昇格した。先月34回目の卒業式をおえ、総数1810名の歯科衛生士を輩出した。

歯科衛生士の主な仕事には歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導の三つがある。歯科予防処置とは患者さんの歯石

を除去してから、という日々だったことを思い出す。しかし今は複数の齲蝕やプレート状の歯石との出会いは大変珍しい。それだけが国における



新入生に訓辞を述べる奈良学長

ブラッシングを含めた口腔ケアの意識は向上し、お口の健康は自分で守っていく、という気構えが国民の中に浸透している。



力強く宣誓する新入生代表(東京短大)

5月1日から新元号「令和」となり、歯科技工学科、歯科衛生学科、専攻科のみなさんは新しい時代の中に一歩を踏み出す。

政府の統計によると、2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となつて国民のおよそ五分の一を占め、65歳以上の人口の約三分

の一人となる。高齢者が占める割合が多い社会構造になると、口腔疾患の变化のみならず、躰全体の老いも進み、日本全国の歯科医師、医師の一人一人が担当する患者さんの数は理論上増加する。同時に医療費も増え、社会保険医療にも変化が生じてくるであろう。そんな

視点を変えてみる。来年2020年には東京オリンピックが開催される。55年前の東京オリンピック開催のとき、私は小学校3年生のハナタレ小僧だった。来年のオリンピックを契機に、みなさんはこれまで以上に

が国の患者さんだけではなく、海外の人々への歯科医療を担い、活躍の場は世界へと拡がっている。特に歯科技工学科のみなさんは基本的スキルと匠の技で、自然感に溢れ、発音や咀嚼などの機能をつかさどる「生きた技工物」を患者さんに提供できる唯一の人材である。今まで最初から最後まで、手で丹念に仕上げていた技工物は、デジタルデータに基づくコンピュータ制御機器によって製作される時代になっている。ただし、如何にデジタル化が進もうとも最後の確認と仕上げはヒトの手によってなされる。諸君には、技工物に命を吹き込む担い手をめ

ざし成長してほしい。また歯科衛生学科に入学されたみなさんは、高齢化や加齢に伴う身体的ハンデや代謝性疾患等に基づく多様な病態を示す患者さんと日々接することになる。したがって、患者さんに優しく寄り添い、また家族の方々の助けになる、的確な医学的対応と温かい心を兼ね備えた担い手をめざし、これからの三力年を歩んでほしい。

専攻科に入学されたみなさんは、今まで学んできた能力を基盤に、世界に通用する次世代歯科医療のリーダー的担い手としての研鑽を積んでいただきたい。

や歯垢を除去したり、齲蝕予防のために歯に薬剤の塗布などを行う。このような処置は口の中を清潔に保つただけではなく、肺炎、心臓病、糖尿病など全身の病気の予防にも役立つ。

歯科診療補助は歯科医師が診療をより円滑に行えるように手助けをする。具体的には器械の準備と管理、器具の受け渡しなどを行う。歯科保健指導とは、口と体の健康を推進・維持していくために患者さんに歯の健康の大切や歯みがき、食生活についての指導を行う。

さらにこの三つに加え、近年の超高齢化に伴い、高齢の方の食事に関する重要な役割を担うようになってきている。高齢

になるにつれ食物を噛む力、飲み込む力が弱くなるがちだ。口腔内に食物が残るため不潔になり、さらには飲み込む力が弱くなるため肺炎の危険性も高くなる。このような状態になることを予防し、弱くなった力を回復するために口腔内の動きを円滑にする処置が必要

になる。この口腔ケアによって口の中の環境を整えることで口腔内だけではなく、体全体の環境を保つことになる。実際、日本歯科大学新潟病院には訪問歯科口腔ケアがあり、歯科衛生士も加わり、弱くなった力を回復するために口腔内の動きを円滑にする処置が必要

患者さんに対して口腔ケアを行い、全身状態の改善を図っている。ほかの病院でも高齢の患者さんの増加に対応するために歯科衛生士を配置する病院が増えていく。このように歯科衛生士の業務はさらに広がる。より多くのことが期待される職種になった。

歯科衛生士は国家資格なので、国家試験に合格しなくてはならない。本短期大学は新潟生命科学部と同じキャンパス内にある。短大の教職員のほかにも生命科学部からの協力もあるし、居ながらにして病院実習を行うこともでき、学習支援体制は十分に整っている。

しかしながら何にもまして一番重要なことは、みなさんの自ら学ぶ姿勢である。これからの学生生活では壁にぶつかることもあるだろう。そんなときには遠慮なくスタッフに相談してほしい。これから充実した学生生活を送り、3年後の4月に

その期待に応えるためにこれから学ぶことがたくさんある。歯科衛生士として一人前の歯科衛生士として羽ばたくことをお祈りして訓辞とする。



歯科衛生士の役割を説く五十嵐学長(新潟短大)



新入生代表から学長に宣誓書が手渡された

この期待に応えるためにこれから学ぶことがたくさんある。歯科衛生士として一人前の歯科衛生士として羽ばたくことをお祈りして訓辞とする。

食
支えるを

~地域リハビリテーションの今・未来~

第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会

The 25th Annual Meeting of the Japanese Society of Dysphagia Rehabilitation

大会長講演
「食べるを支える～地域リハビリテーションの今・未来～」
菊谷 武 (日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック)

25周年記念講演
「摂食嚥下リハビリテーションの誕生と進歩」
才藤栄一 (徳田医科大学口腔リハビリテーション学 1 講座)

基調講演
「国家戦略としての『フレイル予防・オーラルフレイル予防』」
飯島勝矢 (東京大学高齢社会総合研究機構)

市民公開講座
「医療のケアと摂食嚥下リハビリテーション」
野田聖子 (常務理事)

教育講演
1 「オーラルアプライアンス入門～作る人・使う人のために～」
小野高裕 (新潟大学大学院歯学部総合歯学系歯科補綴学分野)

2 「脳卒中の摂食嚥下障害」
藤島 一 (浜松市リハビリテーション病院)

3 「神経筋疾患の治療が先か、摂食嚥下リハビリテーションが先か」
山本敬之 (国立精神・神経医療研究センター/嚥下障害リサーチセンター)

4 「サルコペニアの摂食嚥下障害と歯科治療」
若林秀隆 (横浜市立大学附属市民総合医療センター/リハビリテーション科)

5 「がん治療中も食べるを支える口腔ケア」
池上由美子 (がん医療センター/がん予防・早期発見推進部)

6 「食道癌術後の嚥下障害に対する摂食嚥下リハビリテーション」
兼岡麻子 (東京大学医学部附属病院リハビリテーション部)

7 「小児の摂食嚥下障害」
野本たか子 (日本大学松戸歯学部歯科学講座)

8 「嚥下内視鏡検査の実態とその評価法」
兵頭政光 (高知大学医学部耳鼻咽喉科)

9 「発達障害と食の困難」
高橋 智 (東京大学大学院特別支援学講座)

10 「在宅訪問栄養食事指導における多職種連携した食支援」
中村育子 (医) 福寿会福岡クリニック (在宅部栄養課)

11 「超高齢化社会における sarcopenic dysphagia について～嚥下関連疾患との関係～」
岡崎達馬 (東北大学病院脳神経自由リハビリテーション科)

会期 2019 9.6(金) 7(土)

会場 朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンター 万代島多目的広場・大かま

大会長 菊谷 武 日本歯科大学教授 / 日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック院長

同会先 (一財) 口腔保健協会 コンベンション事業部内 東京都豊島区駒込1-43-9 TEL: 03-3947-8761

http://www.kokuhoken.jp/jsdr25/

9月 新潟で摂食嚥下リハビリ学会

9月6・7日の両日、学術大会では、大会長講演「食べるを支える」を会場に、第25回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会が開催される。大会長は、本学口腔リハビリテーション多摩クリニック院長の菊谷武教授。

新潟での開催は4回目となるが、今回の第25回

のほか、一般講演、シンポジウム、ワークショップなどが行われる。

また9月7日の土曜日午後1時半から、野田聖子衆議院議員を講師に招き、朱鷺メッセ・新潟コンベンションセンターで市民公開講座を開催する。演題は「医療的ケア児と摂食嚥下リハビリテーション」で、入場無料。

HAMAURA FESTIVAL 2019

第48回 浜浦祭

Nothing is impossible ~無限の可能性~

模擬店 学生による無料歯科相談 オープンキャンパス etc...

6.8[sat] 6.9[sun]

6.8[sat] 12:00~部活対抗戦 14:30~男装・女装コンテスト

6.9[sun] 13:00~ HAMAURA GUEST LIVE 東山 奈央トークショー

Wamaurafes

THE NIPPON DENTAL UNIVERSITY

新潟・医の博物館 NHK、朝日新聞で紹介される



「解体新書」の扉絵



20世紀初頭の歯科診療所を再現したコーナー。右は「医の博物館」の佐藤英副館長



20世紀初頭の歯科診療所を再現したコーナー。右は「医の博物館」の佐藤英副館長

前野良沢や杉田玄白らが江戸中期に出版した有名な「解体新書」。18世紀ドイツの医師クルムスが書いた医学書のオランダ語版を翻訳したものだが、なぜか扉絵が原書と違っている。クルムスの原書では、遺体を解剖するようなポーズを取っている女性たちが描かれている。一方、解体新書の方は、重厚な建物の左右にアダムとイブのような男女が立っている。この解剖新書の絵はスペインの解剖学者ヴァルベラの解剖書の絵と酷似しており、これを模写したのだと推察されている。

古い医学書 原本で展示

医の博物館(新潟市)

「ただ、なぜ扉絵を変えたのかは今も謎です。しかも、解体新書が参考にした書物としてヴァルベラの日本書は挙げられていません。日本歯科大学新潟生命歯学部「医の博物館」(新潟市中央区)の佐藤英副館長はこう話す。

「医の博物館には、こうした古い医学書が多数ある。しかも、複製版や複製品ではない、資料の原本を常時展示しているのが特徴だ」といふ。

クルムスの医学書ならば、ドイツ語版とオランダ語版のほかフランス語版、フランス語版まであり、ヴァルベラの解剖書は1579年のラテン語版を展示している。

他にも近代歯科学の祖フォシャーの書物や手書きの原稿、ベニシリンを発見した英国の細菌学者フレミングの自筆の書簡といった具合に歴史上の人物の展示品も多数。

「どうしてこれほど貴重な資料があるのか。同館参事長の樋口輝雄さんによると、中原泉館長(理事長・学長)らがもとめていたものに加え、卒業生らが次々と寄贈したという。大学の創立は1907(明治40)年で卒業生は2万人を超える。その長い歴史が5千点もの収集数と貴重な原本をもたらしたのだ」といふ。

「歯科大だけに昔の木製やゴム製の義歯、お歯黒の道具など歯に関わる器具も多い。その一つ、「歯鏡」は麻酔のなかで18、19世紀の技術的進歩。説明書きには「テコの力を用いて一瞬に患者の頭を押さえる助手がいた」という話もあるそうだ。(大塚晶)



■日本歯科大学新潟生命歯学部「医の博物館」(0255-267-1500) 11JR新潟駅からバスで、浜浦町1丁目下車、徒歩1分。午前10時~午後4時。休館日は土日祝日。大学の創立記念日(6月1日)、8月12、16日、年末年始。入場無料。

医の博物館の紹介記事が掲載された朝日新聞朝刊4月11日号(22面・第2新潟版)

大学院入学生	2019年度日本歯科大学大学院生命歯学研究科入学生10名、新潟生命歯学研究科入学生8名は次の通り。
(生命歯学研究科)	解剖学I 浅田奈緒美 解剖学II 齋藤敦史 病理学 川本沙也華 歯科保存学 中山竣太郎 歯科補綴学II 勝沼昌太郎 口腔外科学 小柳昌史 歯科矯正学 宮坂彩子 歯周病学 井上真帆 齋藤仁志
接着歯科学	中澤美和
(新潟生命歯学研究科)	口腔環境保健学 横井康乃 硬組織機能治療学 宮野侑子 顎口腔全身関連治療学 上津豪洋 平井 悟 薄井成子
(生命歯学部)	咬合形態機能矯正学 吉田早織 放射線定量診断学 外島寛朗 歯周機能治療学 鈴木亮太郎

2019年度日本歯科大学生命歯学部、新潟生命歯学部、東京短期大学、新潟短期大学の学年主任は次の通り(カッコ内数字は学年、下段は副主任)	(1)今井敏夫 田谷雄二 (2)福田雅臣 鈴木まどか (3)新井一仁 土持 宇 富山希美
---	---

2019年度日本歯科大学生命歯学部、新潟生命歯学部、東京短期大学、新潟短期大学の学年主任は次の通り(カッコ内数字は学年、下段は副主任)	(1)廣安一彦 田中聖至 (2)永田和裕 種村 潔 (3)佐藤義英 高塩智子 (4)田中 彰 新井恭子 (5)岡田康男 北島佳代子 (6)遠藤敏哉 長谷川優 清水公夫
---	---

(4)砂田勝久 岩田 洋 安田麻子 西田太郎 山崎孝子 石垣佳希 小倉 晋 児玉実穂 井出吉昭 石黒一美	(1)三富純子 煤賀美緒 (2)佐藤治美 筒井紀子 (3)佐藤律子 菊地ひとみ ○専攻科歯科衛生学専攻・専攻科在宅歯科医療学専攻・専攻科がん関連治療学専攻 中村直樹 土田智子
--	---

(東京短期大学)	○歯科理工学専攻 富田 淳 宇都宮宏充 茂原宏美
(新潟生命歯学部)	○歯科衛生学専攻 浦野瑠子 鈴木 恵 小倉千幸
(専攻科歯科理工学専攻)	○専攻科総合技工学専攻 竹井利香 佐藤文裕 尾崎順男 横山和良 ○専攻科歯科衛生学専攻 合場千佳子 市川順子 (新潟短期大学)

辞令	博士(医学)鈴木 周平 講師として採用する(生命歯学部外科学講座・日 本歯科大学卒業・同大 学大学院医学研究科修了) 令和元年5月1日 本学
----	--

NHK・BSで放映

朝日新聞社の地域報道

制作の「わがまち宝館」に「古い医学書 原本で展示」の見出しで、

医の博物館が紹介された。

博物館と展示品について

紹介した記事(上)

は、朝日新聞朝刊の4

月11日号(一部地域は翌

週)の東北、関東甲信

越、中国四国地方などの

都県地域版に掲載された。

「英雄たちの選択」では、

「解体新書」やオランダ語

版原本、東洋医学の人体内

景図など、多数の所蔵資

料が2日間にわたり撮影

され、博物館副館長の佐藤

利英准教授が解説した。

スタジオで収録された

「杉田玄白の決断」では、

歴史学者の磯田道史氏の

司会で、フランス文学者

の鹿島茂、医師で作家の

海堂尊、歴史学者の岩下

哲典の各氏が、医の博物

館の映像資料を基に、

「解体新書」が18世紀以

降の日本の文化と科学に

与えた影響について、そ

れぞれ語り合った。

生命歯学部解剖学第一

講座の佐藤巖教授の最終

記念講義が、5月16日午

後6時より九段ホールで

行われた。演題は「献体

が贈呈された。

佐藤教授は、1977

年3月東京水産大学水産

学科(現東京海洋大学)

卒業、同年4月本学歯学

部解剖学教室第一講座助

手。講師、助教授を経て、

と肉眼解剖学の展望で、

多数の教職員、大学院生

学生、関係者等が聴講し

た。記念講義終了後、佐

藤教授に中原泉学長より

記念品が手渡され、花束

が贈呈された。

同学会は1998年に

鴨井久一本学名誉教授ら

によって「歯科人間ドッ

ク学会」として設立、昨

年6月に創設20周年を機

に「ジャパンオーラルヘ

ルス学会」と改称した。

学第一講座を主宰し、生

命歯学部図書館長等を歴

任した。

2000年12月教授に就

任。18年余にわたり解剖

学第一講座を主宰し、生

命歯学部図書館長等を歴

任した。

体育会設立・体育館竣工

50周年を祝う

体育会が設立されて50

年と、飯田橋駅前の体育

館が竣工50年を迎えるこ

とから、4月20日(土)

午後6時から体育会OB

による祝賀会が盛大に開

催された。会場のホテル

メトロポリタンエドモン

ト「悠久の間」には、

313名が出席した。

新潟 夜の地震に

近隣住民が本学に避難

6月18日午後10時22分

ごろ、山形県沖を震源と

する地震が発生した。日

本海側の新潟県村上市で

は震度6強を観測し、新

潟市内にも津波注意報が

出たため、新潟生命歯学

部近隣の住民約60名が本

学に避難した。

between measurement

of lip contact position

with the closed

mouth and area of

upper prolabium」

2018年10月発行の

「J Prosthodont Res.」

に掲載された。

閉口時口唇接触位と上

唇唇部の面積から、咬

合高径を決定する咬合採

得法を提唱し、従来の下

顎安静位や嚥下機能を用

いる方法と比較して、よ

り機能的再現性が高い

ことを明らかにしたもの

で、臨床上有益な優れた

論文として評価された。

渡會助教(新潟病院)

日本補綴歯科学会奨励論文賞

新潟病院総合診療科の

渡會侑子(わたらい・ゆ

うこ)助教は、2019

年5月10日札幌「メン

ションセン

ターで開催さ

れた第128

回公益社団法

人日本補綴歯

科学会総会・

学術大会にお

いて、学会奨

励論文賞を受

賞した。

受賞論文は

「Highly producible

method for determination

of occlusal vertical

dimension: relationship

between measurement

of lip contact position

with the closed

mouth and area of

upper prolabium」

2018年10月発行の

「J Prosthodont Res.」

に掲載された。

閉口時口唇接触位と上

唇唇部の面積から、咬

合高径を決定する咬合採

得法を提唱し、従来の下

顎安静位や嚥下機能を用

いる方法と比較して、よ

り機能的再現性が高い

ことを明らかにしたもの

で、臨床上有益な優れた

論文として評価された。

表彰楯を手にする渡會助教(左)



表彰楯を手にする渡會助教(左)

れ、蘭学が広まった。

杉田玄白と解体新書に

ついて、現在は小学校6

年生の教科書に掲載され

ており、後学期の社会の

時間を学習する。原本と

を和訳して、安永3年

(1774)に『解体新

書』の書名で刊行した。

玄白らは原本を「ターヘ

ル・アナトミア」と通称

したが、『解体新書』は

序図一卷、本文四巻から

なる和装本。同書が公刊

されたことが契機とな

り、江戸時代のわが国に

西洋の近代科学が伝えら

れ、蘭学が広まった。

杉田玄白と解体新書に

ついて、現在は小学校6

年生の教科書に掲載され

ており、後学期の社会の

時間を学習する。原本と

を和訳して、安永3年

(1774)に『解体新

書』の書名で刊行した。

玄白らは原本を「ターヘ

ル・アナトミア」と通称

したが、『解体新書』は

序図一卷、本文四巻から

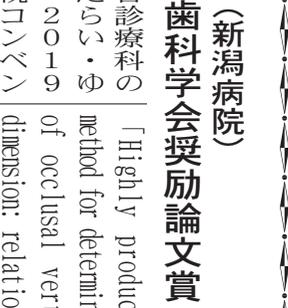
なる和装本。同書が公刊

されたことが契機とな

り、江戸時代のわが国に

西洋の近代科学が伝えら

れ、蘭学が広まった。



表彰楯を手にする渡會助教(左)

渡會助教(新潟病院)

日本補綴歯科学会奨励論文賞

新潟病院総合診療科の

渡會侑子(わたらい・ゆ

うこ)助教は、2019

年5月10日札幌「メン

ションセン

ターで開催さ

れた第128

回公益社団法

人日本補綴歯

科学会総会・

学術大会にお

いて、学会奨

励論文賞を受

賞した。

受賞論文は

「Highly producible

method for determination

of occlusal vertical

dimension: relationship

between measurement

of lip contact position

with the closed

mouth and area of

upper prolabium」

2018年10月発行の

「J Prosthodont Res.」

に掲載された。

閉口時口唇接触位と上

唇唇部の面積から、咬

合高径を決定する咬合採

得法を提唱し、従来の下

顎安静位や嚥下機能を用

いる方法と比較して、よ

り機能的再現性が高い

ことを明らかにしたもの

で、臨床上有益な優れた

論文として評価された。